

阿伎留神社に心を帰す

明治神宮崇敬会 あきる野支部

明治神宮崇敬会あきる野支部(渡邊弘司支部長)は3月29日、五日市の阿伎留神社(阿留多伎(河野喜助会長)のはや

しを樂しみ、昼食を囲んで親睦を深めた。崇敬会では支部事業運動を展開し、地域への愛着を深めてもらうとともに会員相互の交流を図っている。阿伎留神社への参拝は同事業の一貫として行われたもので約100人が参加した。



参拝をする崇敬会あきる野支部の会員たち

はじめに森田進副支部長の先導に合わせ参加者全員で「神を敬い祖先を崇め、日々の生活に励むこと」で始まる会員実践綱領を唱和した。渡邊支部長、市倉健一郎神社総代会長のあいさつに次

上町囃子連と交流



五日市上町囃子連が奉納するはやしを楽しむ

ぎ、拜殿に上がり参拝した。阿留多伎宮司が講師を務めた研修では、延喜式では武蔵国多摩郡の八社の筆頭に記載されている神社であることなど由緒ある神社の歴史などを学んだ。また、阿留多伎宮司は、参拝の際に年配の女性の中に遠慮する姿が目立ったことに触れ、これは国家神道の時代の教育が女性を低く見るものだったからかもしれない。一番偉い神様の天照大神は女性なのだから堂々と参拝してください、と呼び掛けた。研修後は上町囃子連の子どもを含め20人が奉納するはやしを樂しみ、五日市特産ののらぼう菜も味わった。